

【2021 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
神経内科学		必修 (理.作) 選択 (福)	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
竹川 正純	C301	masazumi.takekawa	メールにて対応		
授業の目的・概要	<p>本科目が属する専門基礎科目群臨床医学系科目では、基礎医学系科目で身体の正常構造・機能を修得していることを前提に、理学療法・作業療法を行う上で必要となる病態・診断・治療について学ぶ</p> <p>神経内科学では、主な神経症状や主要な神経疾患を学び、臨床現場で活用できる知識が得られるようにする事、各神経疾患の診断、症状、治療法、予後等を理解して活用できるようになることを目標とする</p> <p>新型コロナウイルス感染予防のため、マイクロソフト teams による同時双方向の遠隔授業を中心とした授業を行う</p>				
学習上の助言	<p>一つの病気の事だけでなく、広い視野で病態をながめる</p> <p>遠隔授業が中心となるので、わかりにくいことはすぐ調べる</p> <p>神経系について、解剖学・生理学の教科書で予習・復習する</p>				
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版/ 編:川平 和美/ 医学書院/ 2019				
参考書	ベッドサイドの神経の診かた 第18版/ 著:田崎義昭 他/ 改:坂井文彦/ 南山堂/ 2016				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	主な神経疾患の病態の理解と、その説明			HSU(1)~(6)	
②	主な神経疾患の症状と診断の理解と、その説明			HSU(1)~(6)	
③	主な神経疾患の治療の理解と、その説明			HSU(1)~(6)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	序論 (1) 神経系の解剖、神経学的診断法、検査法を学ぶ	同時双方向型授業	教科書 第1・2章を予習・復習	4	
2	序論 (2) 続き	同時双方向型授業	教科書 第3・4章を予習・復習	4	
3	神経症候学 (1): 意識障害、脳死、頭痛、失神、運動麻痺など	同時双方向型授業	教科書 第5~7章を予習・復習	4	
4	神経症候学 (2): 錐体路徴候、錐体外路徴候、不随意運動、運動失調、感覚障害など	同時双方向型授業	教科書 第8~10章を予習・復習	4	
5	神経症候学 (3): 高次脳機能障害 (失語、失認、失行) など	同時双方向型授業	教科書 第11~13章を予習・復習	4	
6	神経症候学 (4): 高次脳機能障害 (記憶障害、注意障害、遂行機能障害) など	同時双方向型授業	教科書 第14~16章を予習・復習	4	
7	神経症候学 (5): 構音障害、嚥下障害、頭蓋内圧亢進、髄膜刺激症状、脳ヘルニアなど	同時双方向型授業	教科書 第17~19章を予習・復習	4	
8	神経疾患各論 (1): 脳血管障害: 分類、症状など	同時双方向型授業	教科書 第20章を予習・復習	4	
9	神経疾患各論 (2): 脳血管障害: 診断、治療など	同時双方向型授業	教科書 第20章を予習・復習	4	
10	神経疾患各論 (3): 認知症の原因、分類、症状など	同時双方向型授業	教科書 第21章を予習・復習	4	
11	神経疾患各論 (4): 脳腫瘍、外傷性脳損傷、脊髄疾患など	同時双方向型授業	教科書 第22章~24章を予習・復習	4	
12	神経疾患各論 (5): 変性疾患・脱髄疾患の分類、症状、診断など	同時双方向型授業	教科書 第25章を予習・復習	4	
13	神経疾患各論 (6): 変性疾患・脱髄疾患、錐体外路の変性疾患など	同時双方向型授業	教科書 第26章を予習・復習	4	
14	神経疾患各論 (7): 末梢神経障害、てんかん、筋疾患など	同時双方向型授業	教科書 第27章~228章を予習・復習	4	
15	神経疾患各論 (8): 画像検査など	同時双方向型授業	教科書 第29章を予習・復習	4	

【2021 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床医学系】

試		筆記試験（期末テスト）					
達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	50	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	50	10	0	0	0	60
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	講義の内容を理解して身につけているか期末テストにて評価する 試験の注意点については講義内で説明する 50%の評価とする				必要に応じ、説明と解説をする。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	授業についてのレポートの提出をしてもらう 実施方法と注意点については講義内で説明する 内容を検討して評価する 50% の評価とする				レポートの添削・返却等、必要に応じて対応する
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>教員の実務経験：内科医として40年の臨床経験 実践的授業の内容：実臨床に必要な疾患の病状の理解をしてもらい、身につくようにして国家試験をクリアしてもらう</p> <p>感染症予防のため、Teams（マイクロソフト）を使って同時双方向型遠隔授業を行う 授業時は通信容量が無制限のWi-fi環境を推薦する なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況などによって再度シラバスが変更される可能性がある</p>							